宮畑遺跡の概要

宮畑遺跡は、縄文時代中期～晩期までの約2,000年間にわたる、縄文時代の人々の生活を現在に伝える遺跡で、以下のようなさまざまな情報を発信する。これらの情報は、福島の地域性を培った先人の活動の足跡であるとともに、現在の私たちの生活につながる技術・文化・風習である。そして、宮畑遺跡と現在の間には、環境に適応して生活をしてきた先人の歴史があり、宮畑遺跡と現在を線で結ぶことにより、郷土史の姿を浮かび上がらせることができる。

・竪穴住居跡の４割以上にあたる22棟が意図的に焼かれ、竪穴住居の廃絶に伴う特徴的な風習が存在した縄文時代中期の集落。
・関東地方と交流を伝える縄文時代後期の集落。
・広場を囲み、掘立柱建物ブロックが環状に配列され、宮畑遺跡周辺の拠点的集落と考えられる縄文時代晩期の集落。
・竪穴住居の構造復元の情報を包含する多数の焼失住居跡。
・当時の土地利用を伝える遺物包含層。
・縄文時代の生活を伝える石、土、木、骨などの自然素材で作られた様様な道具。
・縄文時代の技術を伝える漆製品。
・ヒスイ、アスファルト、海の動物の骨などの縄文時代の広域交流を裏付ける遺物。
・コナラ亜属とクリを主要な森林構成要素とし、クリ林、オニグルミ林などの人為的な生態系。
・イノシシ、ニホンジカなどの当時の狩猟と食生活を伝える動物遺存体。